

令和2年度 ふるさとのづくり支援事業

市町村名	山形県鶴岡市	
事業名	鶴岡産シルクⅡを使った海外向け最高級シルク商品の開発・販路拡大事業	
企業等概要	企業等の名称	鶴岡シルク株式会社
	代表者氏名	代表取締役 大和 匡輔
	所在地	山形県鶴岡市大宝寺日本国 223-5
	連絡先	0235-29-1607
	URL	https://www.t-silk.co.jp/

令和4年2月現在

【事業者概要】

平成22年設立。きびそ(kibiso)という絹の製糸工程から産出される織物にできず捨てていた副産物に着目し、kibisoを活用した新素材開発及び地域内一貫生産による高付加価値型シルク製品の開発と販売を行っている。



kibiso

tsuruoka silk

《「kibiso」ロゴマーク》

【事業概要】

◇背景・経緯

鶴岡シルク(株)では、平成22年の設立以来、「kibiso」及び「絹侍」という2つのブランドを展開してきたが、昨今増えているインバウンド需要にこたえられるブランドとして、新たに「MAKINU」を確立。当事業では、松岡株式会社と共同開発した「シルクⅡ」という従来の絹糸とは異なる新規性の高い素材(ニットのよう肌ざわり)で制作した「MAKINU」の開発に取り組んだ。



《蚕が繭を作る最初の段階で出す糸「きびそ」》

◇開発概要

- ・最高級シルクブランド「MAKINU」の全体戦略策定及び新商品開発、「MAKINU」のECサイト(3か国語対応)作成及び映像・画像を使ったビジュアル化を実施。
- ・当初は海外での現地PRや各種イベントへの出展等を予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により取組みが難しくなったことに伴い、「MAKINU」ブランド全体にかかる企画開発及び販路開拓等に係る展開戦略を定めるため、戦略策定会議を複数回実施。
- ・戦略方法として「鶴岡シルク」を軸に、kibiso・絹侍・MAKINUを網羅するマルチブランド戦略を行うこととし、ジャパニーズシルク＝鶴岡シルクがサイト上位になるようなSEO対策を検討。
- ・動画やECサイトなどPR用の撮影については、「日本・モダン・歴史のストーリー・グローバル」なMAKINUの世界観を表現するため、地元鶴岡市の歴史的建造物や牧歌的な風景(庄内平野・羽黒山など)、作業場現場(捺染工場内)をロケ地とし、アフリカ系フランス国籍の女性をモデルとし、ビジュアルによる印象付けを重視して制作。

【成果】

◇地域性・特徴

- ・今回開発した「MAKINU」は、庄内藩士である先人達が築いた開墾精神とシルクのまちで高い品質を再び鶴岡から発信する意図をもって製作されている純国産・最高級の質にこだわった商品となっている。
- ・当社と松岡株式会社の共同で開発した「シルクⅡ」という従来の絹糸とは違う、伸縮性や弾性を持った特殊な形状が特徴である新規性の高い素材を用いている。
- ・シルクⅡにオリエンタル的な日本の正倉院をモダナイズした3柄×2色を制作。



《当事業で製作した高級スカーフ「MAKINU」》



《「MAKINU」の原料シルクⅡ》

◇商品化・販売先

- ・当初はニットストールも制作予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、連携予定先との打合せが難しく、終息次第共同開発を再開予定。現段階での制作はスカーフのみ。
- ・現在、商品及びECサイト等は完成しているが、リリースについては新型コロナ終息後を検討している。
- ・ターゲットを富裕層としており、販売先については首都圏のデパートや百貨店を始め、欧州(フランス、イタリア等)及びアジア圏を予定している。

【今後の展望】

- ・現在本社は松岡株式会社内にあるが、令和4年度には本社を松ヶ岡開墾場へ移転予定。シルク作り体験などリアルな体験ができるような場所を目指していく。またクリエイターが集まれる環境を整え、新たな絹織物の産業を醸成することで、多くの人に希望を届けたいと考えている。
- ・現在日本の製糸工場は全国に2件(群馬県、鶴岡市)となっており、民間では鶴岡市の1社のみとなっている。また、養蚕・製糸・織り・精練・染色を一貫しておこなっているのは全国でも鶴岡市のみであり、鶴岡市のみならず日本の文化としてなくしていけないものと考えている。先人、先輩達の思いや鶴岡シルクのストーリーを後世に残していくために、いかにブランド化・付加価値化をしてトータル的にシルクを生産していくことができるシステムを存続させていくか関係各社、行政含め検討していく。
- ・サステイナブル、エシカルが求められる現代においてナイロンや合成繊維と違い、レーヨン、シルクは土に帰る素材ということ、シルクの良さというものを世界に改めてアピールしていきたい。